



大隅地域振興局 7月豪雨災害

県大隅地域振興局建設部(川原智明部長)は2日、大隅管内で発生した7月豪雨災害に対応した関係団体に感謝状を贈呈した。写真。災害支援に関する協定に基づき、多大な貢献のあった県建設業協会の鹿屋支部(谷口幸司支部長)と曾於支部(上集孝一支部長)、県測量設計業協会(安永幸信会長)、県地質調査業協会(岩田秀樹理事

長)に対し、その功績をたたえた。県土木部は、大規模な地震、風水害等が発生した場合に、被災状況を把握・復旧対応等を迅速かつ的確に行えるよう関係団体と災害支援に関する協定を締

結。7月豪雨被災は、これまで269件の報告があった。建設業協会の2支部は土砂や倒木の除去、測量設計と地質調査の2業協会は被害状況の調査など復旧活動に取り組み、それぞれ迅速に対応した。贈呈式では、谷口支部長、上集支部長、安

建協鹿屋・曾於

県測協

県地質調査協

迅速対応に感謝

永会長、岩田理事長が出席し、「会員総力をあげて取り組んだ。さらなる連携を図り、技術の研さんに努め、これからも迅速に対応できるようにしていきたい」とそれぞれ抱負を語った。

川原部長は「いち早く駆け付け支援活動を行い、地元住民にとっても建設業の社会的役割がいかに大きなものであるか再認識された。災害査定も順調に進んでおり感謝したい」と言葉を寄せた。